

有田市コミュニティ・スクールだより

有田市教育委員会

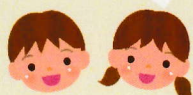
R8.8.1



有田市内小中学校に地域連携のための部屋が用意されている、実際に活用されているというお話は前回までにお伝えしたとおりです。今回も2校の例をご紹介します。

地域連携のための部屋ってどう使う？

宮原小学校の場合



6/17 の第2回学校運営協議会は、教職員(学年代表)も参加して3グループに分かれて地域と学校の連携について話し合いました。

2年生は九九を覚えるのがとても大事なことです。地域の方がこの「宮原ベース」に来てくれているときに九九を聞いてもらえたら、子どもたちは意欲的にがんばると思いますし、私たち教師も助かります。

単学年グループ



それなら協力できそう。でも、いつここにいるか分かるようにしないと...



『宮原ベース』という地域の居場所が学校内にでき、これから学校側と一緒に、「また行きたいな」と思える居心地のよい場にしていきます。また、学校側にも安心して地域住民を迎え入れてもらえるように、社会福祉協議会のボランティア登録制度「おたやん」を活用することになっています。(学校運営協議会発行「宮小応援隊だより」より)

保田小学校の場合

7/9 の第2回学校運営協議会は、「地域連携のための部屋をどう使うか」というテーマで熟議しました。

防犯という点から、自由に入れる部屋となると心配。

名札と名簿は必要。

授業関係で来校する人の居場所として始めるくらいが使いやすいかも。

部屋にノートを置いて、日付と時間や名前、来校した理由など書くと記録として残っていい。

民生児童委員とか学校や地域の育成会、自治会、老人クラブなど子どもたちに関わる人たちが会議で使うのもいい。

名称は『7年月組』

「7年」は大人みんなが仲良く同級生、「月組」は保田小学校のクラス名という意味です。

実は以前からこんな部屋がほしいと思っていた。有田市として市内全校にできて嬉しい。

保護者も気軽にきてもらえるよう学校から上手くPRして。

困ったことが出てきたら、また学校運営協議会で話し合おう。

交流やふれあいが目的だから、子どもたちにちゃんと説明して入って来やすいようにしてほしい。ドアが開いていたらおじさんやおばさんと話しに来たらいいんやでとか...

